

学識者のプロフィール

川島宏一

筑波大学システム情報系社会工学域教授

●専門分野

自治体経営、データによる地域課題の解決

●経歴

- 1984.4 国土交通省（建築基準、宅地開発、公共施設整備）（-2003.6）
- 1991.8 インドネシア共和国住宅担当国務大臣府（アドバイザー）（-1992.8）
- 1994.9 北九州市（都市計画局開発部長）（-1997.7）
- 1998.6 世界銀行（上席都市専門官など）（-2006.3）
- 2006.3 佐賀県（最高情報統括監（CIO））（-2011.3）
- 2012.8 （株）公共イノベーション（代表取締役）（-2015.3）
- 2015.4 筑波大学大学院システム情報工学系教授

●委員会等経歴（現在就任中のものから抜粋）

- 2016.2 水戸市都市計画審議会会長
- 2016.4 国土交通省 G空間基本計画に関する官民勉強会委員
- 2016.10 内閣官房 データ流通環境整備検討会オープンデータ WG 構成員

●常総市との関わり

- 2015 常総市復興ビジョン懇話会委員
- 2015 常総市水害対策検証委員会委員長
- 2016 常総市復興計画策定委員会委員

●検討会に向けてひとこと

2015.9 関東・東北豪雨で甚大な被害を受けた鬼怒川・小貝川地域から「みんなでタイムラインプロジェクト」という日本のこれからの防災活動をリードする取り組みがスタートすることを大変嬉しく思います。関係する地域にお住いの皆様との議論が実り多いものとなるよう貢献したいと考えております。

伊藤哲司

茨城大学 人文学部人文コミュニケーション学科 教授
地球変動適応科学研究機関 機関長

●専門分野

社会心理学、サステナビリティ学

●経歴

1993. 4 茨城大学人文学部講師

1995 博士（心理学）取得（名古屋大学）

1996. 4 茨城大学人文学部助教授

1998. 5～1999. 2 文部省在外研究員としてベトナム・ハノイ滞在

2006. 4 茨城大学人文学部教授 現在に至る

2014. 9 茨城大学地球変動適応科学研究機関機関長 現在に至る

●委員会等経歴

2016. 3 守谷市まちづくり検討委員会委員

●常総市との関わり

2015 常総市復興ビジョン懇話会アドバイザー

2015 常総市水害対策検証委員会委員

2016 常総市復興計画策定委員会アドバイザー

2015年9月に発生した水害以前は、常総市とはほとんど関わりがありませんでした。この水害の直後に茨城大学で調査団を立ち上げ、自ら団長になり、また学生にも働きかけてボランティア活動を促してきました。2016年9月1日には、常総市の小中学校12校に20名の学生を派遣し、防災ゲーム「クロスロード」を実施し好評を得ました。この災害がきっかけとなった常総市の方たちとの縁を、これからも大事にしていきたいと思っています。

●検討会に向けてひとこと

もともと災害研究の専門家ではないのですが、インド洋大津波、東日本大震災、熊本地震などの被災地を歩いてきました。被災の経験はみな個別的ですが、ということは、これから予想される災害で、個々人の状況に合わせた備えをしておくことはとても重要であります。今回のプロジェクトが画期的なものになるよう、微力ではありますが前向きに取り組ませていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

白川直樹

筑波大学システム情報系（構造エネルギー工学域）准教授

●専門分野

河川工学

●経歴

1998.4 東京大学工学部助手

2003.9 筑波大学機能工学系講師

2010.4 筑波大学システム情報系准教授

●委員会等経歴

2004 国土交通省 河川水辺の国勢調査アドバイザーグループ委員

2005 環境省 公共事業と環境政策のあり方に関する懇談会委員

2009 アジア河川・流域再生ネットワーク技術委員

2013 つくば市上下水道審議会委員

2015 国土交通省 関東地方河川技術懇談会委員

●常総市との関わり

2015 常総市復興ビジョン懇話会委員

2015 常総市水害対策検証委員会委員

2016 常総市復興計画策定委員会委員

●検討会に向けてひとこと

災害発生時に自分の身を守り周りの人を助けるには、ふだんから相手を知ることが重要です。相手とは災害（洪水なら川）であり、助ける人（家族や隣人）であり、自分自身でもあります。たいへんな水害を経験された皆様だからこそ、その貴重な体験に基づいた日本最先端の災害対策を考えることができます。少しでも地域の安全を高めるお手伝いできれば幸いです。